

CHIMEI

名琴由奇美文化基金會提供

東日本大震災災害地支援事業のためのチャリティーコンサート

# 名器と巨匠 究極の出会いコンサート

2013年12月6日(金)

19:00開演(18:30開場)

## 演奏曲目

J.S.バッハ:

無伴奏ヴァイオリン・パルティータ  
第2番 ニ短調 BWV1004

J.S. Bach

Violin Partita No.2 in D minor, BWV 1004

シューマン:

交響的練習曲 作品13

R.Schumann

Symphonic Etudes Op.13

\*都合により演奏者と演奏曲目が変更することがあります



ルース・スレンチェンスカ  
Ruth Slenczynska, piano

*Antonio Stradivari  
'Joachim-Elmann'*

使用ヴァイオリン:

1722年 ヨアヒム、エルマン使用

ストラディヴァリ (奇美博物館蔵)

使用ピアノ:

1877年 クララ・シューマン使用

グロトリアン・スタインヴェグ

(劉生容記念館蔵)

*Grotrian Steinweg  
No.3306*



久保陽子

Yoko Kubo, violin

会場: **求道会館** (東京都有形文化財)  
東京都文京区本郷6丁目20-5

入場料: **6,000円**  
(全席自由 200席限定)

主催・お問合せ (社)大学女性協会  
TEL 03-3358-2882 FAX 03-3358-2889  
jauw@jauw.org

劉生容記念館・岡山  
bunsho@liu-mifune-art.jp

協力 奇美博物館 (Chi Mei Museum) / (株)松浅





## ルース・スレンチェンスカ

1925年カリフォルニア生まれ。5歳でカーティス音楽院に入学、6歳でベルリン、8歳でN.Yデビュー、9歳で急病のラフマニノフの代役を務めるなど、ニューヨーク・タイムズが「モーツァルト以来もっとも輝かしい神童」と称え、14歳までにヨーロッパ、アメリカ全土を演奏するも、スバルタの父親に反発、19歳で家出して大学で心理学を学ぶ。26歳の時ステージにカムバック、一躍聴衆に熱狂的に迎えられ、多くの名指揮者と共演、全世界で3500回を超えるコンサートを行い、デッカより12枚のゴールドディスクを出すなど、ピアノの女王として一世を風靡するも、46歳の時自分の芸術を究めるため、ほとんどの商業的な演奏活動を中止、サウス・イリノイ大学で教育にも力を注ぐ。2003年、78歳の時歯科医師三船文彰との出会いにより、2009年まで7回来日し、岡山にて80歳記念を兼ねたラストコンサートを含め、20数回のコンサートを行い、その間に製作した11枚のCD「ルース・スレンチェンスカの芸術」は「レコード芸術」誌で絶賛された。ラフマニノフ、ホフマン、ベトリ、シュナーベル、バックハウス、コルトー、などの巨匠に学び、19世紀の音楽伝統を受け継ぎ、20世紀のピアニズムの進化に寄与し、89歳の現在でも頂点をさらに高らしめるべく歩み続けている。



*Grotrian Steinweg  
No.3306*

### 使用ピアノ:1877年 クララ・シューマン使用 グロトリアン・スタインヴェグ (劉生容記念館蔵)

クララ・シューマンの特注品によるこのピアノは、1887年クレフェルト市のコンサートの後にクララ・シューマンによって市に寄贈され、長く演奏に使われたが、その後市郊外のLinn博物館の地下室に移されたため、第二次世界大戦の連合軍による爆撃を免れた。戦後再び音楽教育に使用されるも、状態が困難となり、20数年前に日本の商社に譲渡され、日本に運ばれた。2006年岡山市の劉生容記念館の所有となり、武蔵野音楽大学楽器博物館のもう一台のクララ・シューマンのピアノ(1871年製)の調査のもとに、136年前の製造当時とほぼ同じ状態に修復された。2007年4月にこのピアノを使い、82歳のピアノの巨匠、ルース・スレンチェンスカが、岡山県北の山頂にある、樹齢千年の満開の醍醐桜のもとで奇跡的な奉納演奏を行い、大きな感動を呼んだ。クララ・シューマンの魂に動かされて、これからもこのピアノがどのようなメッセージをわれわれに伝えてくれるのか、楽しみだ。



## 久保陽子

3歳より父の手ほどきを受け、その後、ジャンヌ・イスナール、斎藤秀雄に師事。1962年18歳でチャイコフスキー国際コンクール第3位入賞を果たす。1963年フランス政府給費留学生としてパリに留学。ヨアヒムの門下のシゲティエなどの諸名ヴァイオリニストに師事。1964年に日本人初のバガニーニ国際コンクール第2位に入賞。1965年ロン＝ティボー国際コンクール第2位、クルチ国際コンクール第1位に輝き、ソリストとして国際的に活躍する一方、ジャパン・ストリングス・クワルテットを主宰するなど、独奏、協奏曲、室内楽、教学のオールマイティーな音楽家として活動。近年はさらにライフワークのバッハとバガニーニの無伴奏全曲演奏を全国に展開。2年前より、さらなる極みを目指して、檀原神宮などでバッハとバガニーニの連続演奏に挑み、今年の12月で600回を達成するという前人未踏の歩みが続いている。2011年、3・11の2週間後岡山の4か所で、台湾の台南の奇美博物館蔵の銘器2挺を使用する「東日本大震災追悼及び八田與一記念」銘器コンサート、11月に台北にて東北大震災への台湾の支援に対する「ありがとう!!台湾」銘器名曲コンサートを奇美博物館蔵の「ヨアヒム＝エルマン」のストラディヴァリでブラームスのヴァイオリン協奏曲を演奏し、いずれも大きな感動を呼んだ。



### 使用ヴァイオリン:1722年 ヨアヒム、エルマン使用 ストラディヴァリ (奇美博物館蔵)

ストラディヴァリ黄金期の作のこのヴァイオリンはその堂々たる風格と語り尽くせない歴史を持っていることで、抜きん出た存在と言える。この時期において、ストラディヴァリは1704年に作り上げた基準をベースに、さらに曲線と細部に修正を加え、後期の作品の特徴を導き出した。すなわち、造形的にはさらに力強く、発声はもっと明瞭で甘美となった。ヨーゼフ・ヨアヒムが1874年から所有、その後1907年にミッシェル・エルマンが購入、亡くなるまでの41年間演奏、「エルマン・トーン」として一世を風靡した。20年前に奇美企業創始者許文龍氏が10年間愛用したヨーゼフ・スークから購入、奇美博物館1500挺のヴァイオリン・コレクションの白眉となる。2011年11月台北での「ありがとう!台湾」コンサートで久保陽子がこの楽器で、ブラームスがヨアヒムに捧げた「ヴァイオリン協奏曲」を演奏、この名器の歴史にエピソードを加えた。今回が博物館外2回目の公開となる。

*Antonio Stradivari  
'Joachim-Elman'*